

# 製品安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名	: STAT-3SF
会社名	: 株式会社テクノスタット工業
住所	: 栃木県那須塩原市下厚崎 5-381
担当部門	: 製造技術部品質管理
電話番号	: 0287-60-5311
FAX 番号	: 0287-60-5312
緊急連絡先	: 0287-60-5311

## 2. 危険有害性の分類

### GHS 分類

物理化学的危険性 : 分類対象外又は区分外

### 健康に対する有害性

・急性毒性(経口)	: 分類できない
・急性毒性(経皮)	: 分類できない
・急性毒性(吸入/蒸気)	: 対象外
・急性毒性(吸入/粉塵)	: 対象外
・皮膚腐食性・刺激性	: 分類できない
・眼に対する重篤な損傷性	
・眼刺激性	: 分類できない
・呼吸器感作性	: 分類できない
・皮膚感作性	: 分類できない
・生殖細胞変異原性	: 分類できない
・発がん性	: 分類できない
・生殖毒性	: 分類できない
・特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 分類できない
・特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 分類できない

### 環境に対する有害性

・水生環境有害性・急性	: 分類できない
・水生環境有害性・慢性	: 分類できない

### GHS ラベル要素

・絵表示又はシンボル	: 非該当
・注意喚起語	: 非該当
・危険有害性情報	: 非該当
・注意書き	: 非該当

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名	: ポリプロピレン
成分及び含有量	: 成分 A エチレン・プロピレン共重合体 : 成分 B ポリプロピレン : 成分 C 帯電防止剤 : 成分 D 添加剤
官報公示整理番号	
化審法・安衛法	: 成分 A 6-10 : 成分 B 6-402
CAS No.	: 成分 A 9010-79-1 : 成分 B 9003-07-0

### 4. 応急措置

吸入した場合	: 高温の溶融樹脂から発生するガスを吸入して気分が悪くなった場合は、被爆者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。気分が回復しない場合は医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	: 破片や切片の場合は、石鹼・水で洗い流す。 溶融物が付着した場合は、衣服の上から大量の水をかけて十分に冷却した後、衣服を脱がせ、清潔なガーゼ等で覆って速やかに医師の診断を受ける。付着物を無理にはがしてはならない。
目に入った場合	: 清浄な水で最低 15 分間洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。眼をこすったり、固く閉じさせてはならない。
飲み込んだ場合	: できるだけ吐き出し、水で口の中をよく洗浄する。異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。

### 5. 火災時の措置

消火剤	: 霧状水、二酸化炭素、粉末、泡
使ってはならない消火剤	: 棒状に噴出する水
火災時特有の危険有害性	: 火災条件下で熱分解し、空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。
特定の消化方法	: 火元への熱源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火作業は可能な限り風上から行う。火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁止する。燃焼又は高温により有毒ガス(CO 等)が発生することがあるので、呼吸用保護具を着用する。

消火を行う者の保護

:消火作業は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。必ず適切な保護具(手袋、眼鏡、防塵マスク、酸素呼吸器等)着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

:作業の際には適切な保護具を着用し、粉塵、ガスなどを吸収しないようにする。風下の人を退避させ、風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

環境に対する注意事項

:環境においては長期間分解しないため、環境汚染の原因となるが、ポリマーの水溶解性は無視できるので、水生生物に対する毒性は弱いと思われる。環境への影響を起ささないよう河川などに放出しない。

除去方法

:飛散したものは掃き集めて紙袋等に回収する。掃除機が粉塵を撒き散らす元とならないように注意する。熔融状態で漏出した時は水等で冷却、固化した後に回収する。

二次災害の防止策

:周囲の着火源となるものを速やかに取り除く。火花が発生しない安全な用具を使用する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

・技術的対策

:取り扱いは換気の良い場所で行う。粉塵が発生する場所は、密閉系で取り扱う。粉塵の堆積を防ぎ、粉塵防爆型の電気設備及び照明設備を設ける。アースの使用等により帯電を防ぐ。

・注意事項

:粉塵が発生する場合は、局所排気内で取り扱う。

・安全取扱注意事項

:成形残分は良く冷却してから廃棄する。

保管

・保管条件

:直射日光を避け、高温多湿な場所を避け保管する。

・技術的対策

:可燃物を近くに置かない。火気、熱源より遠ざける。

・容器包装材料

:情報なし

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

:取り扱い場所には、全体換気装置を設置すること。

許容濃度

:管理濃度は設定されていない。

日本産業衛生学会(2007年度版)

(第3種粉塵として)2mg/m<sup>3</sup>(TWA) (吸入性粉塵)

8mg/m<sup>3</sup>(TWA) (総粉塵)

ACGIH(2008年度版)

(一般粉塵として) 3mg/m<sup>3</sup>(TWA) (吸入性粉塵)

10mg/m<sup>3</sup>(TWA) (総粉塵)

## 保護具

### ・呼吸用保護具

：樹脂製品の機械加工など粉塵の発生する作業の時には、防塵マスクを着用する。発生ガスを吸入する可能性のある場所で作業する場合は、有機ガス用マスクを着用する。

### ・保護眼鏡

：樹脂製品の機械加工など粉塵の発生する作業の時には、保護眼鏡を着用する。保護眼鏡は、樹脂製が望ましい。

### ・保護手袋

：常温でプレート・破片・切片を扱う時はその切口で手指を切る恐れがあるので、手袋を着用するのが望ましい。高温の溶融した樹脂を取り扱う時は、耐熱性の良い手袋を着用する。

### ・保護衣

：通常の作業着で良いが、溶融樹脂を取り扱う場合は長袖の作業着を着用する。

## 衛生対策

：本製品の有害性に関するデータはほとんど得られていない為、取り扱い者の曝露を最小限にするよう、作業環境を整備し、発散した粉塵を吸い込まないように適切な保護具を着用して取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 外観等

#### ・物理的状态

：固体

#### ・形状

：板状

#### ・色

：半透明色

#### ・臭い

：ほとんど無臭

### 物理学的状態が変化する

#### 特定の温度/温度範囲

#### ・融点

：125°C以上

#### ・発火点

：400°C以上

#### 爆発特性

：粉塵爆発下限界濃度

15g/m<sup>3</sup>(平均粒径 24 μm)

30g/m<sup>3</sup>(平均粒径 105 μm)

#### 密度

：0.90~0.92

#### 溶媒に対する溶解性

：水；不溶

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

：通常の貯蔵、取り扱いにおいて安定

### 反応性

：水との反応性、自己反応性、爆発性なし

### 混触危険物質

：酸化剤との混合、接触を避ける。

### 危険有害な分解生成物

：熱分解により、COなどが発生する恐れがある。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口)	:データ無し
急性毒性(経皮)	:データ無し
急性毒性(吸入)	:データ無し
皮膚腐食性・刺激性	:データ無し
眼に対する重篤な損傷 性・刺激性	:データ無し
呼吸器感受性	:データ無し
皮膚感受性	:データ無し
生殖細胞変異原性	:AMES 試験:データ無し、 染色体異常試験:データ無し
発がん性	:IARC グループ 3(ポリプロピレンとして)
生殖毒性	:データ無し
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	:データ無し
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	:データ無し
吸引性呼吸器有害性	:データ無し

## 12. 環境影響情報

生体蓄積性	:データ無し
残留性・分解性	:環境においては長期間分解しない。
生体蓄積性	:データ無し
土壌中の移動性	:データ無し

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:燃焼処理を行う場合、完全に分解させるために燃焼室の温度を 800℃以上に保持する。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関連法令を遵守して適正に処理する。
-------	--

## 14. 輸出上の注意

国連分類	:国連定義の危険物に該当しない。
------	------------------

## 15. 適用法令

消防法	:指定可燃物、合成樹脂類(その他のもの) (3,000kg 以上)
-----	--------------------------------------

## 16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。